東京高連ニュース

発　行
東京高齢期運動連絡会
電話03(5956)8781
FAX03(5956)8782
Em:tokyo.koureiki@gmail.com
発行人：菅谷正美

学ぶことが多かった 訪問介護アンケート 報告・学習会

西東京社保協

西東京社保協は４月13日に「訪問介護アンケート報告・学習会」を開きました。

降雨でしたが36人の方が出席されました。

事前の取り組みについて～４月13日の「報告・学習会」の成功をめざして、西東京市内の33の訪問介護事業所にアンケート用紙を手渡して協力を要請。15の事業所から回答を得て８ページの冊子にまとめました。

手渡しして協力を要請。

その冊子では、①基本報酬の引下げには納得できない、事業が悪化した　②ヘルパーを募集しても応募がない、それなのに利用者が増えている。③ヘルパーの賃金が低い、補助してほしい・・などがほぼ全事業者から訴えられていました。

アンケートのお願いで訪問した33の事業所にアンケート結果を届け、「報告・学習会」への出席をお願いしました。特にアンケートに記名された事業所には直接訪問して出席依頼をしながら訪問介護事業所の大変さについて伺いました。

異口同音に「ヘルパーの応募がない」「介護報酬の削減で経営が苦しい」「訪問介護がなくなると私たち高齢者はどうなるの」などが訴えられました。

訴える内容は同じでも、事業所の苦労の状況はさまざまでした。各事業所は置かれている状況に対応して苦労していることを感じました。

「報告・学習会」では、冊子の項目ごとに分けて説明し、助言者・窪田光さんが全国の具体的な事例を数多く紹介されました。参加者は自分の問題として聞き入っていました。そのことは意見感想文に詳しく書かれていました。

質疑・討論では、ヘルパーさん、家族介護で苦労した方、介護問題に強い関心を持っておられる方など４人が意見を述べられました。

市民として出席された池澤隆史・西東京市長は、介護保険についての市長の考えを話されました。みんなは市長の出席にびっくりしていました。私たちの努力が市長にも伝わっているのかなとうれしかったです。

自公政権の市長で、意見の相違はあっても、市民のために協力できるところはやっていこうと思いました。挨拶すると、「西東京社保協通信」の話になり、読みたいので市長室に届けてくれれば・・ということでした。

市民は、それぞれの状況で介護保険の将来について心配しています。こういう取り組みが私たちが進めなければならない要求運動ではないかと思いました。

（尾花　幸紀）

公共交通の充実を求めて東村山でねばりづよい取り組み

東村山で12年前から「富士見・美住循環バスを走らせる会」に関わって地域の公共交通問題にかかわってきた黒岩俊雄さん、落合泰三さんから話を聞きました。

東村山は、市内に鉄道の駅が10駅あるものの、市の外周に沿ったものが多く、それを補完する移動手段として、民間路線バス４路線が運行され、加えて０３年から１６年にかけて４系統５路線のコミュニティバスが運行されています。しかし、市内には道路事情等でバスの運行が不可能な公共交通空白地域があります。

「富士見・美住循環バスを走らせる会」は地域内自治会50余の賛同を得て、１９年からタクシーによるデマンド交通の実現を、市・議会に要請・請願を取り組んできました。

その実験運行が今年１月から進められています。

「富士見・美住循環バスを走らせる会」は、東京都に次のような点を要請しています。

●市内を走るコミュニティバスの運行継続の条件は、収支率40%以上であり、コロナ禍で乗車数の大幅な減少は、市財政からの補填増になる。都の運営費補助が路線立ち上げ３年間となっている現状を改善し、３年以降も継続・拡充していただきたい。また、デマンド交通についても補助対象とすること。

●私たちの会が自治会と協同で取組み、１６年に実現した「東村山駅～久米川駅」のコミュニティバス路線は、１日往復10便での運行だが、午前と午後に各々２～３時間の運行空白時間があり、住民から増便の要望がだされている。市交通課に要請すると「運転手不足（西武バスに委託）と市の財政負担増になるので難しい」との回答。この点では、運転手不足を解消するための都の対策と財政支援を含めて求めたい。

これでいいのだろうか？介護の現場は今

介護保険が２００１年にスタートして約四半世紀経ちました。発足当時からの度重なる介護報酬の引き下げがあり、施設利用の食事代、部屋料(居住費)などの「ホテルコスト」の導入に依る利用料の値上げ、介護保険料の値上げもあり、訪問介護サービスの利用も含めて、年々介護保険が利用しにくくなってきています。

２０２４年度の介護報酬改定はプラス改定となりましたが、介護職員と全産業平均との月額７万円の賃金格差を埋めるには程遠い内容であり、介護事業所の経営に困難をもたらしている物価上昇分をカバーできない状況です。

また、訪問介護の報酬が引き下げられたことで、地域での身近な訪問介護事業所が廃業に追い込まれる事態が生じています。各地で不安と怒りの声が出てきています。

介護現場の人手不足は、本当に深刻です。ヘルパーの有効求人倍率が15倍を超えるなど、このままでは介護の担い手がなくなり、介護保険制度そのものが崩壊してしまいます。

東京商工リサーチの調査では、２０２４年１月～11月の介護事業者の倒産件数は１４４件と過去最高に達しています。

文京区内でも、介護老人保健施設ひかわしたが２０２４年９月に閉鎖、特別養護老人施設白山の郷が２０２５年３月に閉鎖、そして千駄木の郷も同じように撤退しようという動きがあります。

現場で働く介護労働者の賃金・労働条件も悪くなる一方で、生活ができなくなってきている状態の中で、離職も増えてきています。

こうした中、政府は利用料２割負担の対象拡大、ケアプランの有料化、要介護１・２の保険給付外しなどさらなる改悪に向けた審議を２０２５年から再開しようとしています。

そもそも最初に保険料を徴収しときながら、いざ介護保険を利用するときに利用料の支払いが生じるなどは、二重払いをさせられているに等しい扱いです。

介護する人・受ける人がともに大切にされる介護保険制度に変えていく必要があります。介護保険制度の抜本的改善・介護従事者の処遇改善を求める請願署名が全国的に広く展開されています。

圧倒的多くの署名で私たちの声を集めて、介護にやさしい政治制度にしていくことが大切です。一緒に大きく一歩を踏み出しましょう。

東京高齢期運動連絡会
事務局　工藤　由一

都議選は要求実現の好機！

6月13日告示、22日投票で都議会議員選挙が行われます。“買い物に行くのが怖い”“生活が苦しい”と、多くの都民から悲痛な声が上がっています。米や野菜など食料品の高値が続き、今後も多くの食料品の値上げが予定されています。

トランプ暴走政権の関税攻勢によるスタグフレーション（景気停滞とインフレの同時進行）も懸念される今こそ、「暮らし最優先の都政」への転換が必要です。

東京高齢期運動連絡会は、毎年、「自治体要求アンケート」を実施し、自治体の回答をもとに自治体要求交渉の実現を図っています。国保料や介護保険料の値上げが続く中、多くの団体の運動と協力共同し、幾つかの自治体での据え置きも実現しています。また、東京都後期高齢者医療広域連合に対する要請行動も繰り返してきました。

都民の要求は切実で、多岐に渡っています。

多くの都民は、①物価高への緊急対策として、消費税・インボイス制度廃止を都として国に要請すること、②上下水道料金値下げ、③国保料引き下げ、子どもの国保税ゼロに、④所得に応じて住み続けられる都営住宅の建設、⑤子育て支援として、小中・都立校の給食無料実施と援助などの都民負担軽減、⑥小学校30人学級、中学校全学年の35人学級実現と、教員の持ち時間大幅減（教員定数増）で、ゆきとどいた教育の実現、⑥中小企業の賃上げ助成条例・都としての公契約条例制定、⑦高齢者の社会生活の向上のためのシルバーパスの一層の値下げ・補聴器の購入助成金拡大、等々の実現を願っています。

これらを実現してくれる候補者を見定め、要求実現・都政改革をめざしましょう

引き続き、東京高連活動支援カンパお願いします

東京高連は先の第33回総会の会計監査報告で「収入のうち事業収入が年会費の2倍では、健全な会計とは言えない」との指摘を受け、緊急的な措置として皆さんに「運動資金カンパのお願い」をさせてもらいましたが、3月末までに９団体・個人から１３万９千円のカンパが寄せられています。安定した財政が必要です。是非、各団体・個人のご支援を重ねてお願いします。

【カンパの送り先】　ゆうちょ銀行　：
記号番号：００１６－４－３５７４２１
口座名：：東京高齢期運動連絡会

第33回東京のつどい分科会・講座紹介（1）

だれでもが安心して住み続けられるまちづくり（第一分科会）

5つの報告が行われ、質問も多く出され充実した内容の分科会になりました。

1．サロン大島・江東健康友の会

小栗 多美子 さん

江東区では、「サロン大島」が介護保険の総合事業の一環として、NPO法人「たんぽぽ会」との連携により運営されています。

要支援者やそれに相当する方を対象に、体操やレクリエーション、健康チェック、人生会議などに取り組み、参加者の介護予防と社会参加を促進しています。参加費はお弁当代のみで、区からの補助金で運営しています。参加には地域包括センターの紹介が必要です。9年間活動し、参加者は楽しいと言って休まずに通い、スタッフにとっても元気のもとになっています。

「江東健康友の会」は、コロナ禍で休止していたサークル活動の再開と会員拡大を目指しています。血管年齢測定や散歩、落語鑑賞、七福神巡り、戦災資料センター見学など、地域に根差した活動を展開しています。また、平和活動として20年にわたり折り鶴を広島、長崎、水俣に送っています。昨年は健康まつりを開催、地域住民の健康づくりと交流促進に力を入れています。

2．PFAS汚染対策の取り組み

三多摩健康友の会

大橋 光雄 さん

三多摩健康友の会は、横田基地周辺で深刻化しているPFAS（有機フッ素化合物）による水質・土壌汚染問題に取り組んでいます。

立川市の井戸から高濃度のPFASが検出されたことを受け、汚染の実態調査と原因究明、国や自治体への対策要請に取り組んでいます。

PFASの健康被害に関する科学的知見を共有し、住民の不安解消と健康保護を目指しています。

「PFAS汚染を明らかにする立川市民の会」を中心に運動が広がり、市長への公開質問状提出や対策会議の設置を実現しました。しかし、国は50ng／Lという緩い暫定基準をよしとして、大企業、米軍にあまい姿勢を取っています。これを変えさせる必要があります。

3．よみせ通りいこいの家

東京保健生活協同組合

谷中初音支部

小野 婦美枝 さん

東京保健生活協同組合が主体となって運営する「よみせ通りいこいの家」は、文京区と荒川区の境界に位置し、地域の多世代をつなぐハブの役割を果たしています。組合員さんが気軽に立ち寄れる居場所として月～木開くとともに、無料塾、子ども食堂、フードバンクなども運営しています。家賃月20万は東京保健生協が負担し、子ども関連事業は台東区からの補助金を受けています。

班会活動に加え、体操、手芸、脳トレ、英会話、卓球など多様な活動を提供しています。特に、若い世代との交流を目指した夏祭りを開催。保健生協でやった調査では、班会参加者は、施設入所、要介護、死亡などしにくいという結果が出ています。

4．コミュニティープレイス「まつまる」見学報告　東京民医連

山根 浩 さん

東京民医連は、一般社団法人コミュニティーネットワーク協会が推進する「団地プロデュース型コミュニティー再生計画多摩プロジェクト」における、コミュニティープレイス「まつまる」（松ケ谷団地）を見学しました。

このプロジェクトは、空きスペースを活用し、医療・介護施設、保育園、就労支援事業所などを複合的に整備することで、多世代が安心して暮らせる団地の再生を目指しています。「まつまる」では、介護支援総合事業と障害者就労支援事業を組み合わせ、地域住民に開かれた交流拠点を提供しています。

この事業は、民医連の法人と地域住民とが共同してまちづくりに取り組む取り組みの参考になる。しかし、民医連がめざす「無差別・平等の地域包括ケア」に向かうには「人権」「権利としての社会保障」の視点を加えなければならない。

5．年金者組合東村山支部の活動

齋藤 正裕 さん

年金者組合東村山支部は、10人の役員と約20人の運営委員を中心に、高齢者が主体的に活動する様々な取り組みを行っています。

14のサークル活動（麻雀、日本史、ハイキングなど）や、高齢者の困り事を支援する「お助け隊」、会員間の交流を深めるためのイベント（大会、新春のつどい、お花見など）を実施しています。

特に、共同墓地の設置は、子孫に墓の心配をさせず安心してこの世を去ることができる重要な取り組みです。また、「一人で寂しい仲間をなくす」という観点から、会員への訪問活動を重視し、組合費納入率100％を維持しています。散歩の活動に参加した他支部からの参加者も「みんな楽しそうに参加している」との感想が述べられました。

みんなで声を上げ 国民本位の政治を！

第38回日本高齢者大会成功させ 高齢期運動前進の力に！

38回目の日本高齢者大会は、11月11日、12日にさいたま市の大宮シティ・ホールで行います。首都圏の4都県の共同開催で、このような形式は初めてです。ぜひ成功させて、高齢期運動前進の力にしていきましょう。

いま、世界も日本も大きな変革期に直面しています。昨年の日本被団協のノーベル平和賞の受賞、自民党裏金体質を明らかにする中での昨年の衆議院選挙での大敗とその後の石破内閣の迷走、国民運動で高額療養費の上限引き上げの政府方針を凍結させるなど、政治状況の大きな変化が生まれているときでもあります。

しかし、石破自民党は大軍拡予算の強行、社会保障の削減などの方針は変えていません。

今年は戦後80年、多大な犠牲のもとに積み上げてきた平和な社会、社会保障の充実を高齢者も先頭に立ってすべての年齢の人達と協働して実現していかなければなりません。

今回の大会の特徴は、日帰り圏からの現地参加も積極的に促しつつ、ウェブも追求する大会です。参加する前から「ワクワク感」のある、参加して元気になる大会をめざします。

首都圏という特徴を存分に生かし、充実した分科会や講座を準備します。短歌などの文化活動、また盆踊り大会、健康マージャン大会や映画上映などのお楽しみ企画も検討しています。

一部の野党は高齢者の社会保障をカットし、社会保障の4兆円カットや尊厳死にまで言及しています。誰もが安心して老い、人生を全うする社会こそ私たちが求めるものです。

5つのテーマは今年も追い続けます。

1．高齢者、すべての国民の人権を守る運動
2．財界の内部留保などの財源を活用し、国民の自己負担を減らし、なくす。
3．地域での高齢期運動を強める。
4．介護問題を改善し、介護保険の改悪を許さない。
5．年金問題の課題を学び、改善にとりくむ。

そして、補聴器助成、高齢者の移動の権利の保障、はじめ魅力あるテーマを分科会、講座で準備します。皆さんの声を積極的にお寄せください。

日本高齢者人権宣言を基本にふまえた充実した高齢者大会を参加型でいっしょに作りましょう。参加しましょう。お待ちしています。

年金者組合江東支部が演芸大会

年金者組合江東支部は、3月2日砂町文化センターで演芸大会を開催しました。

年金者組合江東支部は、組合員が約180名。毎年演芸大会を開催しています。

今年度の演芸大会には、多彩な出演があり、約80人が集まり、年金者組合員以外からも参加者がありました。

江戸かっぽれ亀戸道場の皆さんの「三千両」「なすとかぼちゃ」がオープニングを飾りました。

多くの方が歌を披露「紅花摘歌」「石狩川流れ節」「白浜音頭」「正調生保内節」「灘の酒造り歌」「黒田節」「天竜下れば」「秋田節」「江差馬子唄」と多彩な歌声が響きました。

「江戸のはな」「残侠子守歌」「女鬼龍院」の踊り、トランペットによる「ひまわり」他の演奏、大正琴による「真っ赤な太陽」他、ハーモニカ「四季の歌」他、コカリナ「青い空は」他の演奏もあり、オルオルの皆さんの「虹を」「ウルパラクワ」のフラダンスや、げんきかいの皆さんの南京玉すだれの演技もありました。

元気いっぱいの演技が続き、参加者からは、日頃の練習の成果を発表する場があってよかったとの感想が出されています。

こうした取り組みは文化活動の大切な一環です。高齢者にとって生涯にわたる自己実現と社会への関与に大きな役割を果たす活動であり、地域の宝物でもあります。